

第246回 番組審議会

1. 日 時 平成27年10月13日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名
出席委員数 7名(欠席委員数 3名)

○ 出席委員(敬称略)

九萬原 敏巳(副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

加藤 裕一

久慈 浩介

菅原 正二

八木橋 伸之

吉田 浩次

○ 会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

藤原 銀司 (常務取締役報道局長)

前田 秀男 (取締役技術局長)

工藤 浩 (取締役営業局長)

菊地 十郎 (報道部長)

井上 智晶 (報道部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『みんなのニュース』 「響け！復興の槌音」特別企画
～東日本大震災から4年6ヶ月 住まいの再建とコミュニティー～
平成27年9月11日(金) 18:29～19:00放送

5. 議事概要

今回は、9月11日に放送した『みんなのニュース』 「響け！復興の槌音」特別企画～東日本大震災から4年6ヶ月 住まいの再建とコミュニティー～について審議しました。審議の概要は以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ菊地プロデューサーからの説明

- ・東日本大震災から4年6ヶ月経った9月11日、通常ニュースのローカル部分を15分拡大し特別企画として放送した。
- ・テーマは、被災者が今一番関心の高いもの、満足していない部分ということで「住まいの再建とコミュニティー」を取り上げることにした。阪神大震災で被災した方々のコミュニティーが今どうなっているのか、今後岩手の被災地でも起こるかもしれない問題点を出し、そうならないようにしましょうということを意識して番組をまとめた。

●井上ディレクターからの説明

- ・仮設住宅、災害公営住宅、自力再建した人達から話を聞くと、一番聞かれたのは、コミュニティーの問題だった。現場で聞けば聞くほど高齢化の問題や人口減少の問題などが複雑に絡んでいて、改めて難しい問題だと感じた。またこれは、被災地だけではなく現代社会に共通する課題でもあると思った。
- ・伝え方については、分りやすく伝えるという狙いでプラズマ画面を使って解説することに時間を割いた。また自分自身が宮古支局に勤務した経験を生かしたいという思いもあった。

●出席した委員からの意見

- ・コミュニティーの問題を取り上げたのは良いこと。過去の教訓とのすり合わせをやることも良かった。
- ・今回の番組は難しい番組だと思った。見た人それぞれの受け止め方で相当違うと思う。
- ・ポイントを5つに分けて整理し、丁寧な作りで興味のある人には面白い番組だと思うが、一般視聴者には取っ付きにくい面もあったのではないかと。
- ・高台移転が本当に成功するのか、その後どうやって過疎を克服していくのか、今後の番組に生かしてほしい。
- ・東京オリンピックを控え、東京の工事単価が上がって岩手に大工さんがいなくなるのではないかと心配がある。この時期にオリンピックをやるのが良いのかどうか、その辺まで番組で検証してほしい。
- ・時間が30分にしては内容が難しく、時間があればもう少し広がりがあったのではないかと。コミュニティーという問題が浮き彫りになってきていることを捕らえた視点は良かったと思う。
- ・今年度は街作りのピークで、これからは住まいの転換期だということの問題提起は十分できた。
- ・コミュニティー作りの支援で、県の人が「自治体は踏み込まない方が良い」と言っていたが、一度破壊されて修復するという状況では何かしらの行政のコミットメントは必要ではないのかと思ったりもした。
- ・難しい問題に真正面から取り組んで行くことも大事。そして何よりこの「復興の槌音」を続けていくことが大事だと思う。

- ・コミュニティー作りで「阪神大震災の教訓は生かされないものだ」という点をえぐりだしていた。番組を通じて「あれは問題だ、ここは直そうじゃないか」と気付かせる、メディアの役割に期待している。
- ・災害公営住宅の入居率自体が低いという話を聞く。コミュニティー以外の課題もありそうなので、いろいろな分析を加えて進めてほしい。
- ・「住まいとコミュニティー」というテーマでいえば、住むには、働く場所が必要。人口減少も含めそこが最初に見えてくると思うので継続してこのテーマを捕らえていってほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成27年10月13日（水）産経新聞 東北版

※平成27年10月24日（土）朝4時から午前4時5分まで

「めんこいテレビ批評」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし